

高耐食乾式接合胴縁システム

エコザック®

設計マニュアル

2025年 10月版

エコザック普及協議会

高耐食乾式接合胴縁システム「エコザック®」設計マニュアル

1. はじめに

東日本大震災では天井材や外壁材の落下による被害が発生し、非構造部材の安全性の確保がクローズアップされるようになってきました。2015年5月にはJSCAより「設計者のための見落としてはならない非構造部材」が出版されるなど、設計者が非構造部材の安全確保に対しより積極的な関与が求められる状況にあります。

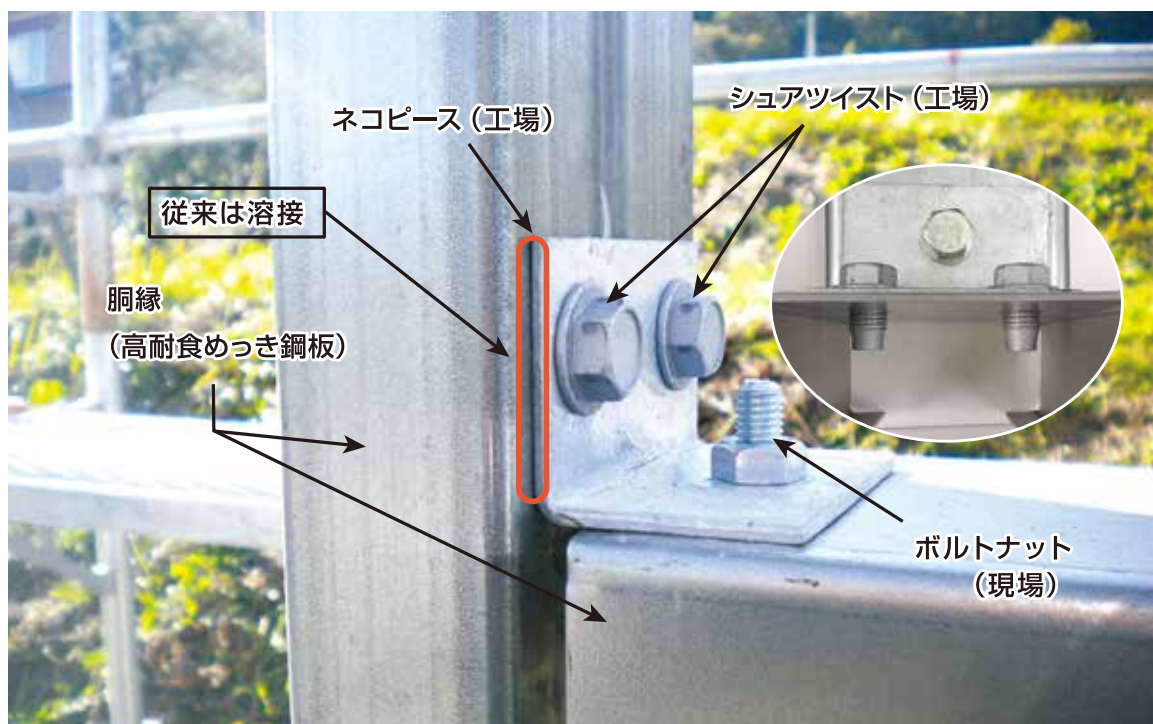
一方、非構造部材のひとつである鋼製胴縁は主要構造材よりも板厚が薄く、さび止め塗装を施しただけでは耐用年数が主要構造材よりも劣るため、長期間の使用で主要構造材より先に胴縁が腐食してしまう課題がありました。

そこで、エコザック普及協議会では、板厚が薄い胴縁だからこそ高耐食性が必要であることに着目し、胴縁の材料に高耐食めっき鋼板を用い、さらに接合に高耐食タッピング® 型ワンサイドボルト「シュアツイスト」を用いて乾式接合とすることで、高品質でコストパフォーマンスに優れた「エコザック®」を開発しました。

本設計マニュアルでは、エコザック®の各基準耐力を用いた胴縁接合部の設計計算例を紹介すると共に、胴縁の設計に必要な各種データを取りまとめております。是非ご活用くださいますようお願い申し上げます。

2. エコザック®とは

エコザック®は、高耐食めっき鋼板の鋼管や形鋼を用い、溶接に替わりシュアツイストでネコピースを締結する高耐食乾式接合胴縁システムです。施工現場での胴縁の施工は、従来胴縁と同じ作業（中ボルトによる締結）です。形鋼は JIS G 3350 の SSC400、鋼管は JIS G 3466 の STKR400 を使用し、板厚は 2.3mm および 3.2mm を使用します。エコザックは、エコザック普及協議会が開催する技術講習会を受講し、認定された会社（正会員）のみが製造出来る認定制としています。



3. シュアツイストとは

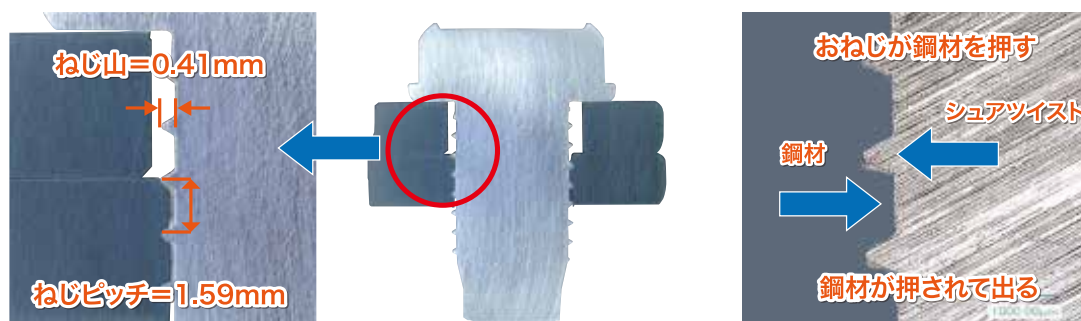
シュアツイスト自身で鋼板にめねじを塑性変形によって成形し、鋼部材を締結するボルトです。スレッドローリングねじの一種ですが、独自のねじ形状によって高い接合強度が得られます。

3-1 製品の特長

- 片側からのカンタン施工。
- 市販のインパクトドライバで施工ができ、専用工具不要。
- 下孔を開けるだけでタップ加工が不要。
- 付け外しが可能。
- 高耐食表面処理を標準採用。

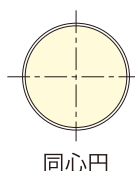
独自のねじ形状

メートルねじでは無く、鋼材の締結に適した独自のねじ形状になっています。



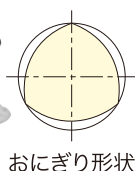
一般的なおにぎり形の断面形状とは異なり、全周でねじがかかるため、強度、振動、耐水、耐食性が高い

＜シュアツイスト＞



同心円

＜従来品＞

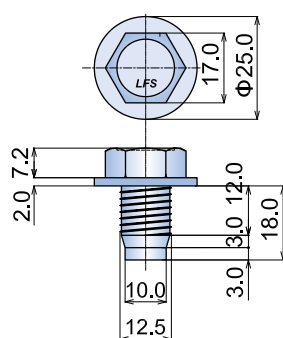


おにぎり形状

従来品は、おにぎりの頂点でめねじ形成するため
<頂点から錆びる>
<かかりが少ないので強度が低く、緩み易い>
<すき間があり浸水する>

3-2 形状、寸法

シュアツイスト SB1250DB



SB1250DB

ねじ山径 … $\Phi 12.5\text{mm}$
下 孔 径 … $\Phi 12.0 \pm 0.1\text{mm}$
材 質 … SWCH20K
(JIS G 3057 冷間圧造用炭素鋼)
表面処理 … 高耐食性表面処理 ディスゴリントス
六角頭部 … 対辺17mm
締付厚さ … 12mm以下

3-3 締結工具

締結トルクの調整が可能なパナソニック製インパクトレンチ品番 EZFLA6J (または同等品) を用います。

4. エコザック® 接合部の基準耐力

高耐食めっき鋼板 (t2.3mm と t3.2mm) とシュアツイスト (Φ12.5mm) の接合部の基準耐力

(kN)

SB1250DB	引張	せん断
t2.3mm	2.85	10.55
t3.2mm	5.37	15.10

短期許容耐力＝基準耐力 長期許容耐力＝短期許容耐力 × 1/1.5

5. 胴縁接合部の設計

5-1 本設計マニュアルの概要

- ① 接合部（シュアツイスト・中ボルト・支持ピース）の検討を行う。
- ② 風荷重は、速度圧と風力係数を設計者が直接入力する。
- ③ 本マニュアルでは胴縁本体の設計は行なわない。
- ④ 本マニュアルでは横胴縁、縦胴縁の 2 パターンの計算ができる。

5-2 接合部の設計

計算条件は次の 3 点の内容としている。

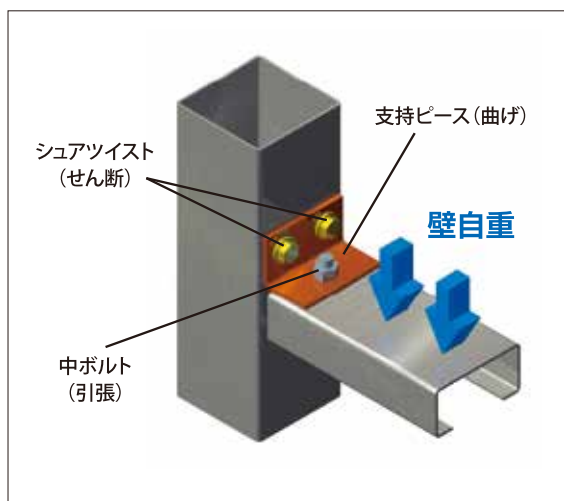
- ・ 応力算定は胴縁の部材端部接合状態をピン接合で計算。
- ・ 断面算定は一般的な許容応力度計算。
- ・ せん断と引張が同時に作用することによる組合せ荷重の検討を行なっている。

また、横胴縁、縦胴縁について以下の応力計算を行ない判定している。

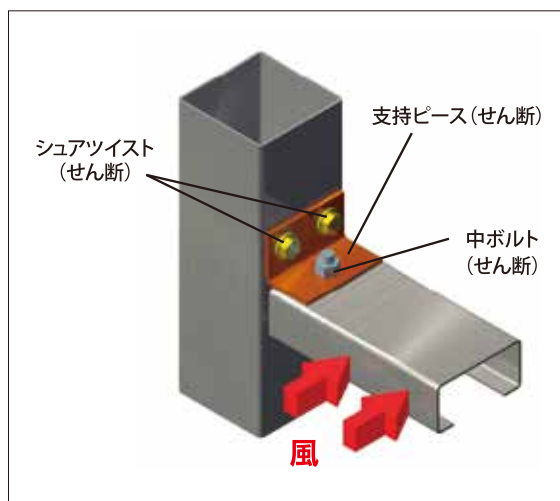
【横胴縁】

- ① 鉛直荷重（壁自重による長期荷重）
- ② 水平荷重（風荷重によるせん断荷重）
- ③ 組み合わせ荷重（壁自重と風荷重による組み合わせの短期荷重）

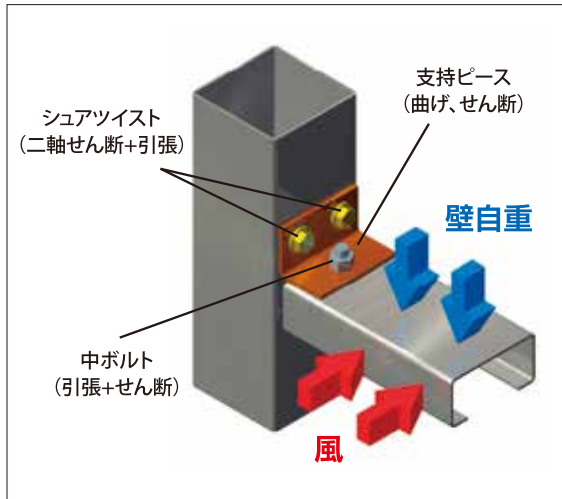
① 鉛直荷重(長期)



② 水平荷重(短期)



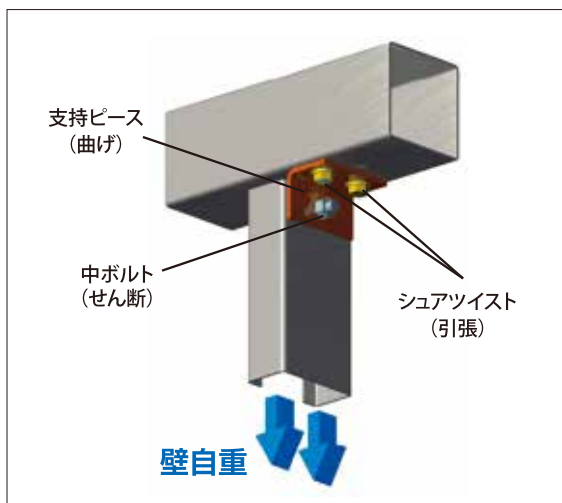
③組み合わせ荷重(短期)



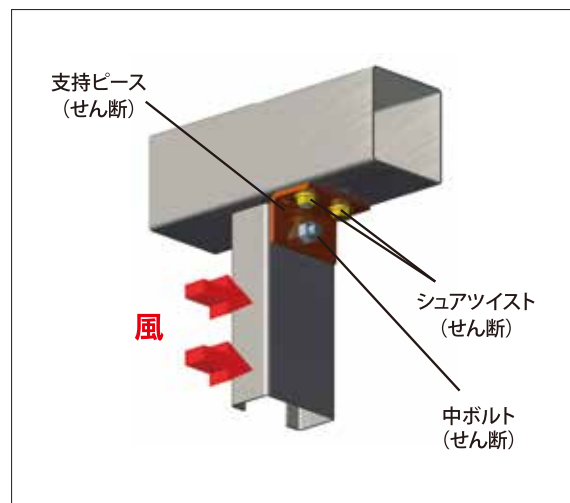
【縦胴縁】

- ① 鉛直荷重 (壁自重による長期荷重)
- ② 水平荷重 (風荷重によるせん断荷重)
- ③ 組み合わせ荷重 (壁自重と風荷重による組み合わせの短期荷重)

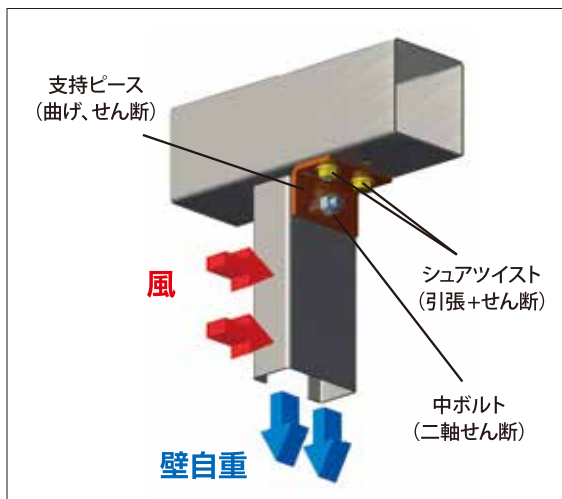
①鉛直荷重(長期)



②水平荷重(短期)



③組み合わせ荷重(短期)



6. エコザック® 接合部の計算例（入力計算シート）

：設計者が建物条件に応じて直接入力する項目

：条件変更する場合は設計者が直接入力する項目

■ 設計条件

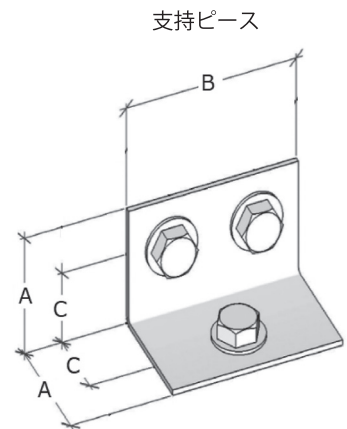
建築場所	東京都千代田区		
建物概要	鉄骨造5階建		
建物高さ	30.0	m	
外壁荷重	窯業系サイディング 20mm	250	400 N/m ²
内壁荷重	PB@12 クロス貼り	100	
胴縁荷重	C-100×50×20×2.3	50	

■ 胴縁

支点間距離	2.7	m
ピッチ	0.9	m

■ 支持ピース

	A	B	C	板厚
サイズ(mm)	50	90	30	3.2
$Lf_b =$	157	N/mm ²		



■ シュアツイスト

許容せん断耐力	10.55	kN/本（長期は短期の 2/3）
許容引張耐力	2.85	kN/本（長期は短期の 2/3）
本数	2	
断面積Ae	107.1	mm ²



胴縁の板厚により下表から数値を選択し入力する。

胴縁板厚	引張(kN)	せん断(kN)
t2.3mm	2.85	10.55
t3.2mm	5.37	15.10

■ 中ボルト

	M12	
A =	113.04	mm ²
Ae =	84.78	mm ²
$Lf_s =$	70	N/mm ²
$Lf_A =$	120	N/mm ²

軽鋼構造設計施工指針・同解説 SI単位版 第7刷 P31

軽鋼構造設計施工指針・同解説 SI単位版 第7刷 P31

■ 風荷重

速度圧 =	678.5	N/m ²
風力係数 =	3.03	
風圧力 =	2056	N/m ²

■ 計算結果（横胴縁）

支持ピース	曲げ	長期	0.61	≤ 1.00 OK
		短期	0.06	≤ 1.00 OK
中ボルト	引張	長期	0.05	≤ 1.00 OK
		短期	0.28	≤ 1.00 OK
シュアツイスト	せん断	長期	0.04	≤ 1.00 OK
		短期	0.12	≤ 1.00 OK
	引張	短期	0.83	≤ 1.00 OK

■ 計算結果（縦胴縁）

支持ピース	曲げ	長期	0.61	≤ 1.00 OK
		短期	0.06	≤ 1.00 OK
シュアツイスト	引張	長期	0.13	≤ 1.00 OK
		短期	0.12	≤ 1.00 OK
中ボルト	せん断	長期	0.08	≤ 1.00 OK
		短期	0.29	≤ 1.00 OK

エコザック® 胴縁ヒース接合部の検討（横胴縁）

1. 条件

-

2. 鉛直荷重による支点荷重

外壁	窯業系サイディング	20mm	=	250 N/m ²
内壁	PB@12 クロス貼り		=	100 N/m ²
胴縁	C-100×50×20×2.3		=	50 N/m ²

支点 1 ケ所当り

$$N = (250 + 100) * 1.35 * 0.9 + 50 * 1.35 = 493 \text{ N}$$

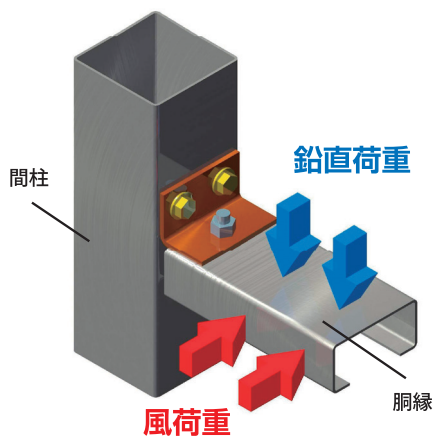
3. 風荷重による支点荷重

風上側壁面にて検討

- a. 速度压 $q = 678.5 \text{ N/m}^2$
b. 風力係数 $C_f = 3.03$
c. 風上側風圧力 = 速度压 $\times$ 風力係数 $\times$ 見付面積

支点 1 ヶ所当り

$$P = q \times C_f \times A = 678.5 \times 3.03 \times (0.9 \times 1.35) = 2498 \text{ N}$$



【荷重イメージ】

4. 胴縁ピースの断面検討

N = 493 N

P = 2498 N

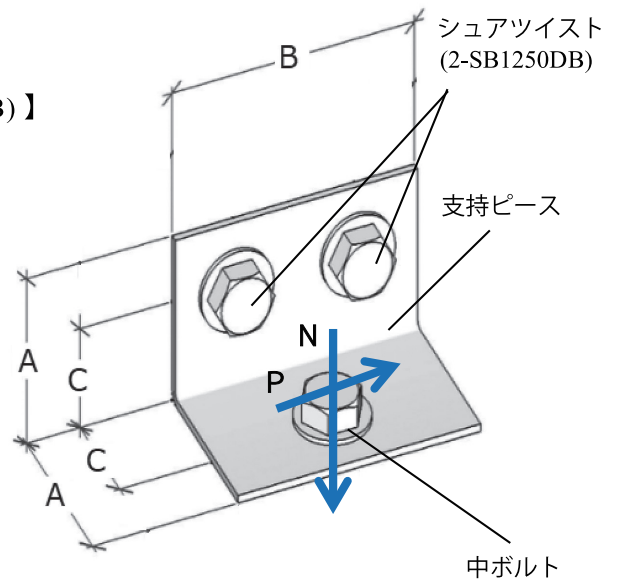
符号【 L-(A) x (A) x (板厚) L = (B) 】

支持ピース L-50 x 50 x 3.2 L = 90

ボルト芯間距離 C = 30

工場取付ボルト シュアツイスト
(2-SB1250DB)

現場取付ボルト 中ボルト M12



A. 支持ピースの検討

・支持ピースの性能

$$Z_x = (90 * 3.2^2) / 6 = 154 \text{ mm}^3$$

・荷重

$$M_N = 492.8 * 30 = 14783 \text{ N.mm}$$

・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期許容曲げ応力度で検討）

$${}_L\sigma_{bx} = 14783 / 154 = 96 \text{ N/mm}^2$$

$${}_L f_b = 157 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{{}_L\sigma_{bx}}{{}_L f_b} = \frac{96}{157} = 0.61 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

②短期 風に対する検討（短期許容せん断応力度で検討）

$$sfs = 235 / \sqrt{3} = 135.7 \text{ N/mm}^2$$

$$\tau = P / A = 2498 / (90 * 3.2) = 8.7 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{\tau}{sfs} = \frac{8.7}{135.7} = 0.06 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

B. シュアツイストの検討

・シュアツイスト（SB1250DB）の耐力

実験報告書（シュアツイスト一本当たりの許容耐力(kN)）による

せん断強度 許容せん断耐力 10.55 kN/本（長期は短期の 2/3）

引張強度 許容引張耐力 2.85 kN/本（長期は短期の 2/3）

$$s_y Q = 10550 \text{ N/本}$$

$$L_y Q = 7033 \text{ N/本}$$

$$s_r T = 2850 \text{ N/本}$$

$$L_r T = 1900 \text{ N/本}$$

・荷重

$$Q_N = 493 / 2 = 246 \text{ N/本}$$

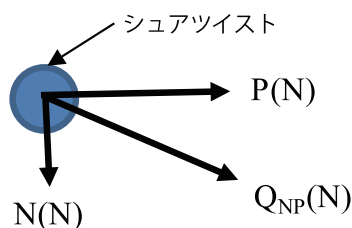
$$Q_P = 2498 / 2 = 1249 \text{ N/本}$$

・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期せん断耐力で検討）

$$\frac{Q_N}{L_y Q} = \frac{246}{7033} = 0.04 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

②短期 壁自重+風に対する検討（短期せん断耐力で検討）



$$N = Q_N = 246 \text{ N}$$

$$P = Q_P = 1249 \text{ N}$$

$$Q_{NP} = 1273 \text{ N}$$

$$\frac{Q_{NP}}{s_y Q} = \frac{1273}{10550} = 0.12 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

③短期

引張とせん断を同時に受けるシュアツイストの許容引張応力度 f_{ts}

$$f_{ts} = \sqrt{(f_{t0}^2 - 3\tau^2)} = \sqrt{(26.6^2 - 3 \cdot 11.9^2)} = 16.9 \text{ N/mm}^2$$

ここで、シュアツイストの断面積 $A_e = 107 \text{ mm}^2$

$$\text{シュアツイストの許容引張応力度 } f_{t0} = 2850 / 107 = 26.6 \text{ N/mm}^2$$

$$\text{シュアツイストのせん断応力度 } \tau = s_{Q_P} / A_e = 1273 / 107 = 11.9 \text{ N/mm}^2$$

$$16.9 \text{ N/mm}^2 < 26.6 \text{ N/mm}^2$$

ゆえに $f_{ts} = 16.9 \text{ N/mm}^2$ とする。

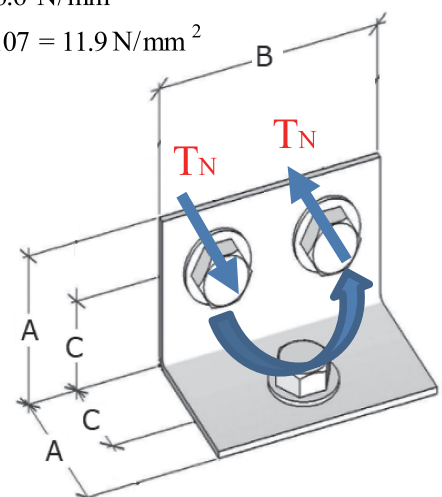
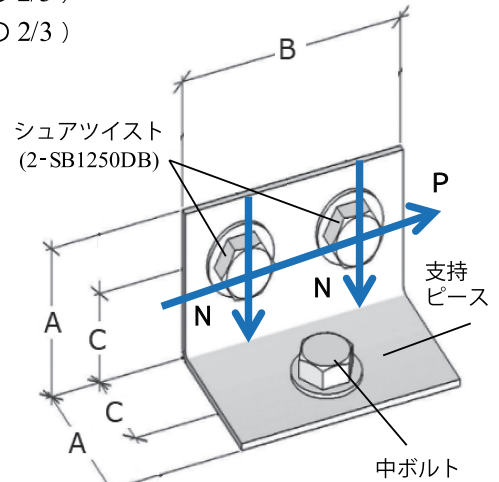
・シュアツイストに生じる短期引張力 T_N

$$T_N = (2498 \cdot 30) / 50 = 1499 \text{ N}$$

引張力の検討

$$R_{ts} = A_e \times f_{ts} = 107 \cdot 16.9 = 1806 \text{ N}$$

$$\frac{T_N}{R_{ts}} = \frac{1499}{1806} = 0.83 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$



C. 中ボルトの検討

・中ボルトの耐力

サイズ M12

$$A = 113.0 \text{ mm}^2$$

$$A_e = 84.8 \text{ mm}^2$$

$${}_L f_A = 120 \text{ N/mm}^2 \quad (\text{短期は長期の 1.5倍})$$

$${}_L f_S = 70 \text{ N/mm}^2 \quad (\text{短期は長期の 1.5倍})$$

・荷重

$${}_L T_N = T_N = 493 \text{ N/本}$$

$${}_S Q_P = 2498 \text{ N/本}$$

・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期許容引張耐力で検討）

$${}_L T = {}_L f_A \times A_e = 120 * 84.8 = 10174 \text{ N}$$

$$\frac{{}_L T_N}{{}_L T} = \frac{493}{10174} = 0.05 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

②短期

引張とせん断を同時に受けるボルトの許容引張応力度 f_{ts}

$$f_{ts} = \sqrt{(f_{t0}^2 - 3 * {}_S Q_P^2)} = \sqrt{(180.0^2 - 3 * 29.5^2)} = 172.6 \text{ N/mm}^2$$

ここで、ボルトの許容引張応力度 $f_{t0} = 180 \text{ N/mm}^2$

$$\text{ボルトのせん断応力度} \quad \tau = {}_S Q_P / A_e = 2498 / 84.8 = 29.5 \text{ N/mm}^2$$

$$172.6 \text{ N/mm}^2 < 180 \text{ N/mm}^2$$

ゆえに $f_{ts} = 172.6 \text{ N/mm}^2$ とする。

せん断力の検討

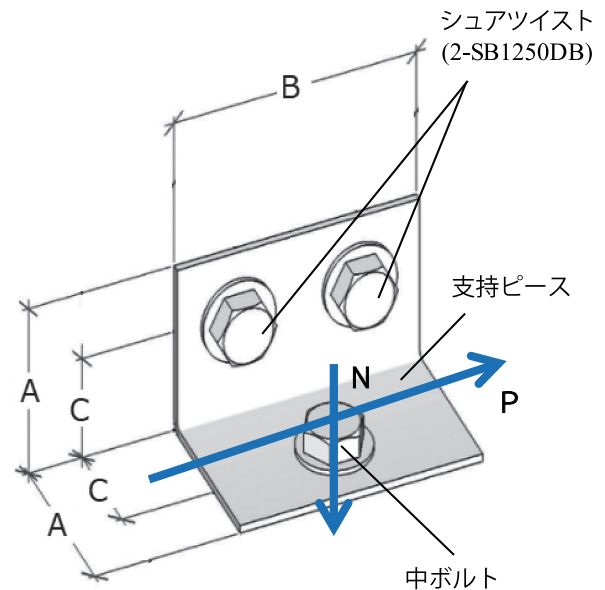
$${}_S f_s = 105 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{\tau}{{}_S f_s} = \frac{29}{105} = 0.28 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

引張力の検討

$$R_{ts} = A_e \times f_{ts} = 84.8 * 172.6 = 14634 \text{ N}$$

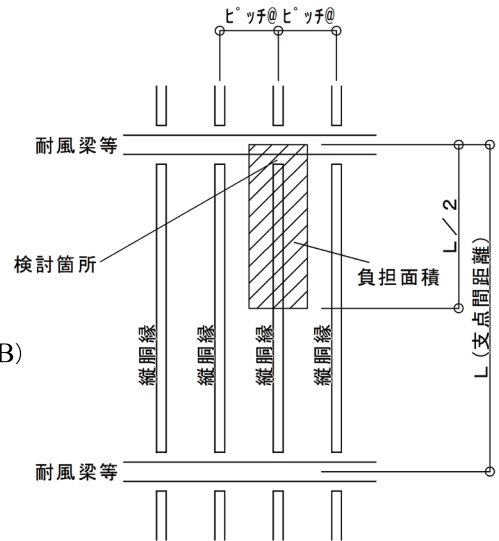
$$\frac{T_N}{R_{ts}} = \frac{493}{14634} = 0.03 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$



エコザック®胴縁ピース接合部の検討（縦胴縁）

1. 条件

- ・ 建築場所 東京都千代田区
- ・ 建物概要 鉄骨造 5階建
- ・ 建物高さ H= 30 m
- ・ 胴縁 縦胴縁
 - 支点間距離 L= 2.7 m
 - ピッチ @ 0.9 m
 - 支持ピース L-50×50×3.2 L=90
 - 工場取付ボルト シュアツイスト(2-SB1250DB)
 - 現場取付ボルト 中ボルト M12



2. 鉛直荷重による支点荷重

外壁	窯業系サイディング 20mm	= 250 N/m ²
内壁	PB@12 クロス貼り	= 100 N/m ²
胴縁	C-100×50×20×2.3	= 50 N/m ²

支点 1 ヶ所当り

$$N = (250 + 100) \times 1.35 \times 0.9 + 50 \times 1.35 = 493 \text{ N}$$

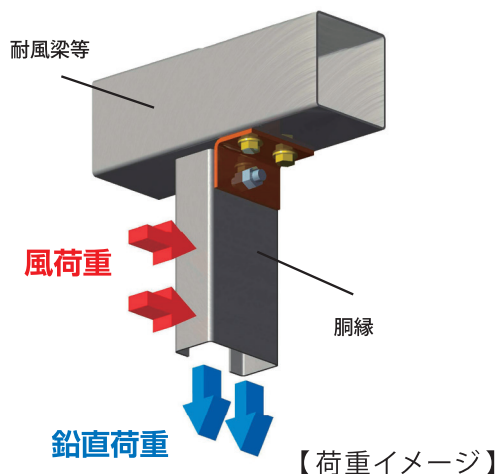
3. 風荷重による支点荷重

風上側壁面にて検討

- a. 速度圧 $q = 678.5 \text{ N/m}^2$
- b. 風力係数 $C_f = 3.03$
- c. 風上側風圧力 = 速度圧 × 風力係数 × 見付面積

支点 1 ヶ所当り

$$P = q \times C_f \times A = 679 \times 3.03 \times (0.9 \times 1.35) = 2498 \text{ N}$$



4. 胴縁ピースの断面検討

N = 493 N

P = 2498 N

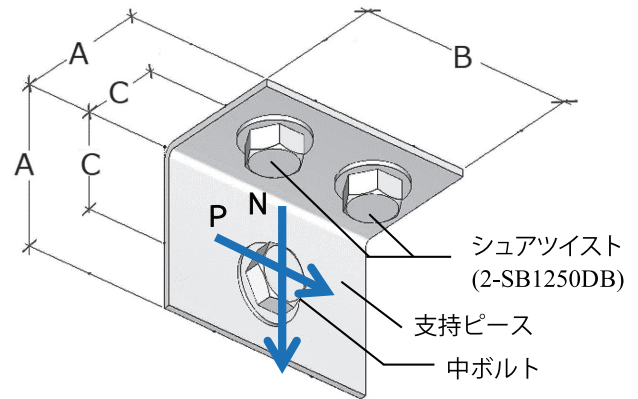
符号【L - (A) x (A) x (板厚) L = (B)】

支持ピース L-50×50×3.2 L=90

ボルト芯間距離 C = 30

工場取付ボルト シュアツイスト
(2-SB1250DB)

現場取付ボルト 中ボルトM12



A. 支持ピースの検討

・支持ピースの性能

$$Z_x = (90 * 3.2^2) / 6 = 154 \text{ mm}^3$$

・荷重

$$M_N = 492.8 * 30 = 14783 \text{ N.mm}$$

・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期許容曲げ応力度で検討）

$${}_L\sigma_{bx} = 14783 / 154 = 96 \text{ N/mm}^2$$

$${}_L f_b = 157 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{{}_L\sigma_{bx}}{{}_L f_b} = \frac{96}{157} = 0.61 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

②短期 風に対する検討（短期許容せん断応力度で検討）

$$sfs = 235 / \sqrt{3} = 135.7 \text{ N/mm}^2$$

$$\tau = P / A = 2498 / (90 * 3.2) = 8.7 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{\tau}{sfs} = \frac{8.7}{135.7} = 0.06 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

B. シュアツイストの検討

・シュアツイスト（SB1250DB）の耐力

実験報告書（シュアツイスト一本当たりの許容耐力(kN)）による

せん断強度 許容せん断耐力 10.55 kN/本（長期は短期の 2/3）

引張強度 許容引張耐力 2.85 kN/本（長期は短期の 2/3）

$$s_y Q = 10550 \text{ N/本}$$

$$L_y Q = 7033 \text{ N/本}$$

$$s_r T = 2850 \text{ N/本}$$

$$L_r T = 1900 \text{ N/本}$$

・荷重

$$Q_N = 493 / 2 = 246 \text{ N/本}$$

$$Q_P = 2498 / 2 = 1249 \text{ N/本}$$

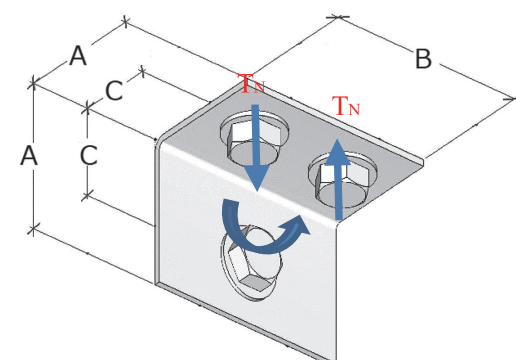
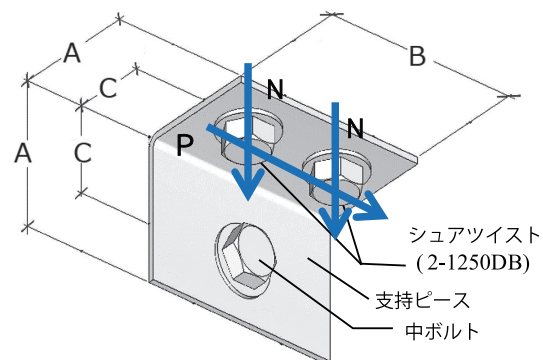
・シュアツイストの生じる短期引張力 T_N

$$T_N = (2498 * 30) / 50 = 1499 \text{ N}$$

・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期引張力で検討）

$$\frac{Q_N}{L_y T} = \frac{246}{1900} = 0.13 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$



②短期

引張とせん断を同時に受けるシュアツイストの許容引張応力度 f_{ts}

$$f_{ts} = \sqrt{(f_{t0}^2 - 3\tau^2)} = \sqrt{(26.6^2 - 3 * 11.7^2)} = 17.3 \text{ N/mm}^2$$

ここで、シュアツイストの断面積 $A_e = 107 \text{ mm}^2$

$$\text{シュアツイストの許容引張応力度 } f_{t0} = 2850 / 107 = 26.6 \text{ N/mm}^2$$

$$\text{シュアツイストのせん断応力度 } \tau = s Q_P / A_e = 1249 / 107 = 11.7 \text{ N/mm}^2$$

$$17.3 \text{ N/mm}^2 < 26.6 \text{ N/mm}^2$$

ゆえに $f_{ts} = 17.3 \text{ N/mm}^2$ とする。

せん断力の検討

$$s f_s = 10550 / 107 = 99 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{\tau}{s f_s} = \frac{11.7}{99} = 0.12 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

引張力の検討

$$R_{ts} = A_e \times f_{ts} = 107 * 17.3 = 1856 \text{ N}$$

$$\frac{Q_N + T_N}{R_{ts}} = \frac{1745}{1856} = 0.94 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

C. 中ボルトの検討

・中ボルトの耐力

サイズ M12

$$A = 113.0 \text{ mm}^2$$

$$A_e = 84.8 \text{ mm}^2$$

$${}_L f_s = 70 \text{ N/mm}^2 \text{ (短期は長期の 1.5 倍)}$$

・荷重

$${}_L Q_N = 493 \text{ N/本}$$

$${}_s Q_P = 2498 \text{ N/本}$$

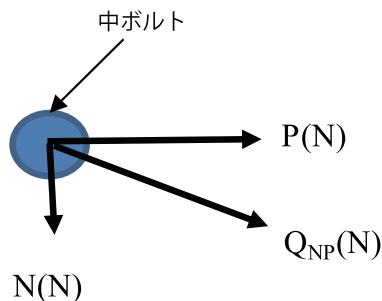
・検討

①長期 壁自重に対する検討（長期許容せん断耐力で検討）

$${}_L Q = {}_L f_s \times A_e = 70 \times 84.8 = 5935 \text{ N/本}$$

$$\frac{{}_L Q_N}{{}_L Q} = \frac{493}{5935} = 0.08 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$

②短期 壁自重＋風に対する検討（短期せん断耐力で検討）



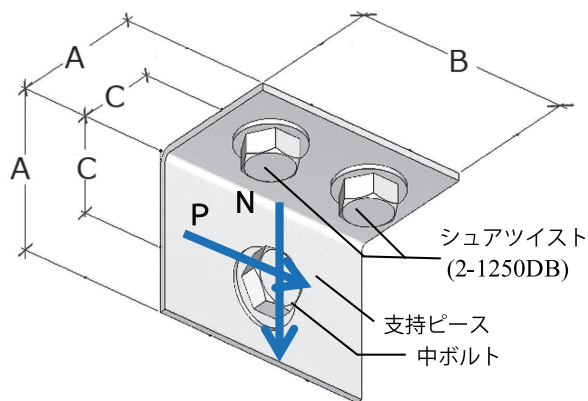
$$N = Q_N = 493 \text{ N}$$

$$P = Q_P = 2498 \text{ N}$$

$$Q_{NP} = 2546 \text{ N}$$

$${}_s Q = {}_s f_s \times A_e = 105 \times 84.8 = 8902 \text{ N/本}$$

$$\frac{Q_{NP}}{{}_s Q} = \frac{2546}{8902} = 0.29 < 1.00 \quad \boxed{\text{OK}}$$



7. 現場施工時の注意点

地組み吊上げ時の際、接合部の母材変形やシュアツイスト接合部に想定外の荷重がかからないように、ご注意ください。

8. 利用規定

(1) 利用条件

エコザック®設計マニュアル（以下、本システムと呼びます）は、エコザック普及協議会（以下、本協議会と呼びます）により、日本国内に居住されるお客様を対象としてお名前Eメールアドレス、電話番号、ご住所などの連絡先を必要情報として入力し、登録いただいた方（以下、ユーザーと呼びます）のご利用に限らせていただきます。

(2) 利用方法

ユーザーには、登録いただいたのちにメールにてワンタイムパスワードをお送りいたしますので、そのワンタイムパスワードを入力し本システムをダウンロードしてください。ユーザー以外の方への譲渡は禁止いたします。

(3) 個人情報の取り扱い

エコザック®HP および9項にありますプライバシーポリシーをご覧ください。

(4) 著作権

本システムの著作権は、本協議会が所有します。

(5) 中止・休止・訂正・変更について

本協議会は、システムの変更等のメンテナンス、火災、停電、地震等天災、その他止むを得ない事情により、事前にユーザーに通知することなく本システムの変更及び配布を中止・休止する場合があります。また、本システムに不都合・不具合が生じ、本協議会が必要と判断した場合は、本システムの修正・訂正を行います。

ただし、本協議会はシステム訂正の義務を負うものではありません。

(6) 免責事項

本システムはユーザー自身の責任の下で利用ください。本協議会および本協議会に關係する各社は、本システムをご利用いただいた上で生じた、いかなる障害・被害・事故・その他それに類するものに対して、一切責任を負いません。

なお、本システムは、日本市場向けに提供しており、日本国内に居住されるお客様を対象としています。日本国以外の国または地域からの本システムの利用に関して、本協議会および本協議会に關係する各社は何ら責任を持ちません。

9. 個人情報保護に関する方針(プライバシー・ポリシー)

本協議会は、以下のとおり個人情報保護方針を定め、個人情報保護の仕組みを構築し、本協議会関係者に個人情報保護の重要性の認識と取組みを徹底することにより、個人情報の保護を推進致します。

○個人情報の管理

本協議会では、お客さまの個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、個人情報への不正アクセス・紛失・改ざん・漏洩などを防止するため、セキュリティシステムの維持・管理体制の整備・社員教育の徹底等の必要な措置を講じ、安全対策を実施し個人情報の厳重な管理を行ないます。

○個人情報の利用目的

お客さまからお預かりした個人情報は、本協議会からのご連絡や業務のご案内やご質問に対する回答として、電子メールや資料のご送付に利用いたします。

○個人情報の第三者への開示・提供の禁止

本協議会では、お客さまよりお預かりした個人情報を適切に管理し、次のいずれかに該当する場合を除き、個人情報を第三者に開示いたしません。

- ・お客さまの同意がある場合
- ・お客さまが希望されるサービスを行なうために本協議会が業務を委託する業者に対して開示する場合
- ・法令に基づき開示することが必要である場合

○個人情報の安全対策

本協議会では、個人情報の正確性及び安全性確保のために、セキュリティに万全の対策を講じています。

○ご本人の照会

お客さまがご本人の個人情報の照会・修正・削除などをご希望される場合には、ご本人であることを確認の上、対応させていただきます。

○法令、規範の遵守と見直し

本協議会は、保有する個人情報に関して適用される日本の法令、その他規範を遵守するとともに、本ポリシーの内容を適宜見直し、その改善に努めます。

